

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご了承くださいませようお願いいたします。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) メインクエスト編



共通メインクエスト その7

灯りの消えた日 ～ あの山を越えて

灯りの消えた日

ヤ・シュトラ : さて、あとはタイタン討伐の報告をするだけね。……残念だけど、私はまだ調べたいことが残っているの。
「リムサ・ロミンサ」の「ル・アシャ大甲佐」へ、タイタン討伐の報告を、お願いできるかしら？
きっと喜ぶはずだわ、よろしくね。

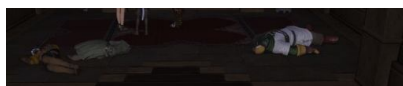
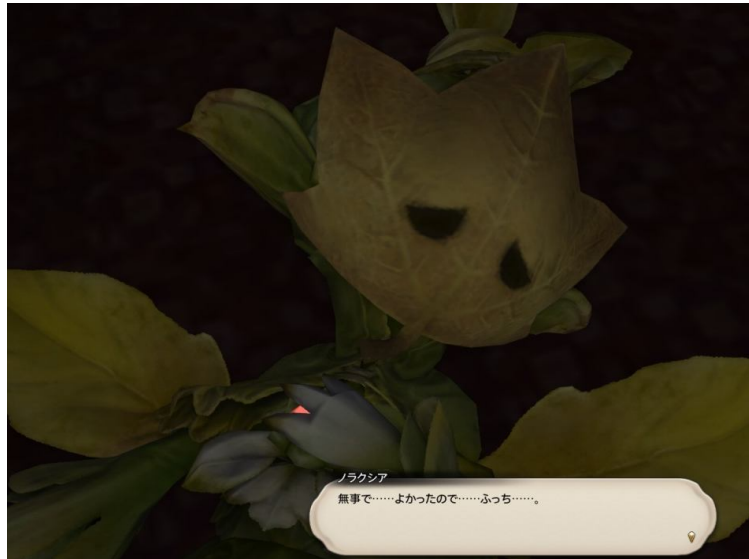
ル・アシャ大甲佐 : ほ、本当に！？ 本当に蛮神「タイタン」を倒しちゃうなんて……すぐにメルウィブ提督に伝令を飛ばさなきゃ！！
イフリートに続いて、タイタン討伐にまで成功するなんて、キミって、ほんとにすごい冒険者なんだねッ！
エオルゼアの英雄と言っても、過言じゃないよ！
タイタン討伐とその報告、ご苦労さま！ 「暁」のみんなにも、よろしく伝えてねッ！

ミンフィリア : ……聞こえる？ わたしよ、ミンフィリア。
ヤ・シュトラから報告を聞いたわ。まさか、蛮神「タイタン」を討伐するだなんて！
あなたも、ヤ・シュトラも無事でよかった……。心配してたんだからね！
例によって、一度「砂の家」に帰ってきてくれるかしら。今後の方針を詰めましょう。……じゃ、待ってるわね！

緊張した市民 : アンタ、この建物に用事があるのか？ ……だったら丁度いい、中の様子を見てきてくれよ。
物騒な音がしたきり、急に静かになっちまったんだ……。

心配そうな市民 : さっき、この建物の中からすごい音がしてたのよ……。悲鳴も聞こえたんだけど……いったい、何があったのかしら……？

ノラクシア : 無事で……よかったので……ふっち……。



(超える力)

ミンフィリア : 例によって、一度「砂の家」に帰ってきてくれるかしら。今後の方針を詰めましょう。……じゃ、待ってるわね！
本当に無事でよかった……。
あなたの尊い意思是、勇敢な冒険者の手によって、再びエオルゼアに広がろうとしていますよ。
ッ！？

暁の血盟員 : 貴様ら何者だ！？ がっ……。

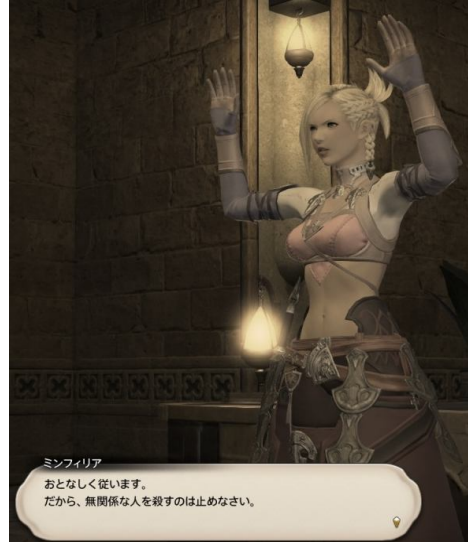


リウピア : ここに、蛮神「イフリート」と「タイタン」を沈めた冒険者が居るはずだ！
出てこい！ 隠れていると、こいつら皆殺しだぞ？

タタル : ハア……ハア……。

ミンフィリア : ……クソッ。
あなたは隠れていなさい。いいわね……。そして、あの人が帰ってきたら、こう伝えて。

ミンフィリア : おとなしく従います。だから、無関係な人を殺すのは止めなさい。



リウピア : あら？ 「暁」の親玉さん、見つけた。
丸腰で出てくるなんて、勇気あるわねえ。

ミンフィリア : あの人は居ないわ。探したって無駄よ。

リウピア : ……本当みたいね。

ミンフィリア : でも、ここがどうやって……。まさか！？

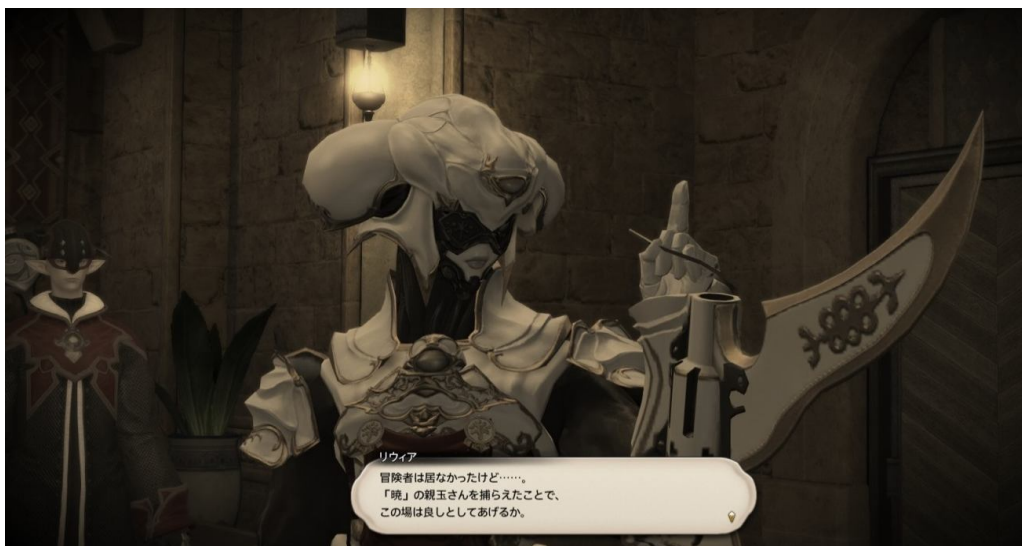
リウピア : おしゃべりは、そこまです。

ミンフィリア : どうして……。

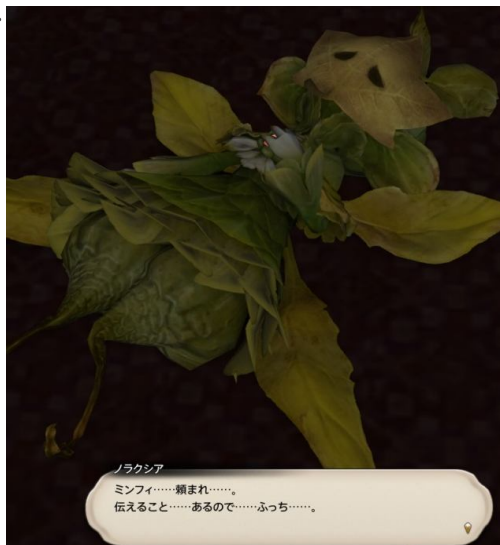
リウピア : ……興が冷めたわ。

ミンフィリア : やめなさいッ！

リウピア : もう十分だ。止める。
冒険者は居なかったけど……。『暁』の親玉さんを捕らえたことで、この場はよしとしてあげるか。
あの力、親玉さんにも在るみたいだしね。フフフ……。楽しみだわ。
いつまでやっている。
退くぞ。連れて行け。
(超える力終わり)



ノラクシア : 伝え……いので……ふっち……。
ミンフィ……頼まれ……。伝えること……あるので……ふっち……。
東ザナラーンの……。……聖アダマ・ランダマ教会へ……。身を隠して……っち……。
ごめんでふっち……。ミンフィを……みんなを……。……守れなかったのでふっち……。
せっかく……みんなと……仲間に……。
みんなを……助け……て……。

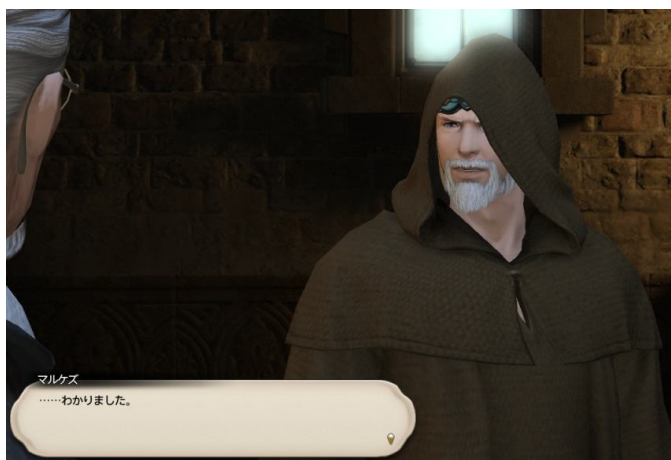
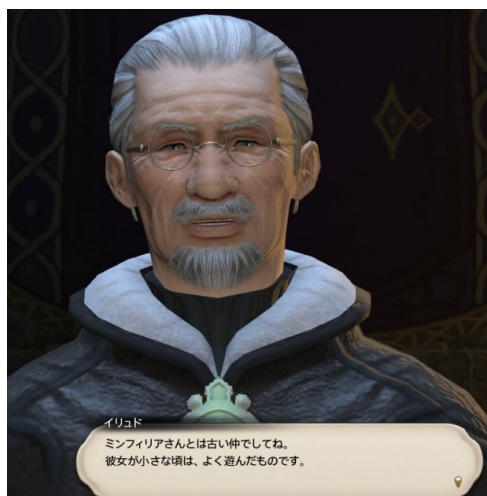


イリュド : どうかさいましたか？ このように寂れた教会ですが、お力になれることがあれば伺いましょう。
では、目を閉じて、心を穏やかに……。祈りはすべての魂に、穏やかな救いをもたらしましょう。……また、いつでもいらしてください。
どうかさいましたか？ このように寂れた教会ですが、お力になれることがあれば伺いましょう。
(合い言葉「のろい」)
はて、冒険者どのは呪われてなどいない様子。呪術士のことをおっしゃっているのだしたら、
ウルダハのギルドに向かわれてはいかがですか？
(合い言葉「のぼら」)
「のぼら」ですと……！？ その合言葉を知るとは、あなたはいったい……。
まさか、そんなことが……。
……では、ミンフィリアさんや、「暁」の皆さんの行方も、わかっていないのですか？
おお、神よ……。どうか皆をお護りください……。
あなたも、大変な想いをされましたな……。少し休まれなさい。
ミンフィリアさんとは古い仲でしてね。彼女が小さな頃は、よく遊んだものです。
それに、彼女が「暁の血盟」を立ち上げてからは、いささかではあるものの、私も一員として、協力させてもらっていたのです。
だから、遠慮することはない。しばらくは、この教会を使われるといい。
……そうだ、彼を紹介しておきましょう。マルケズ、こっちへ来てもらえるかな？

マルケズ : ……はい、神父。

イリュド : この男はマルケズと申す者。先の第七霊災のおり、記憶を無くしております。この教会で保護しておるのです。
無口ですが、心優しい男です。ここで過ごす間、不便なことがあれば、彼に言うといいでしょう。
マルケズ、この方を頼みましたよ。

マルケズ : ……わかりました。

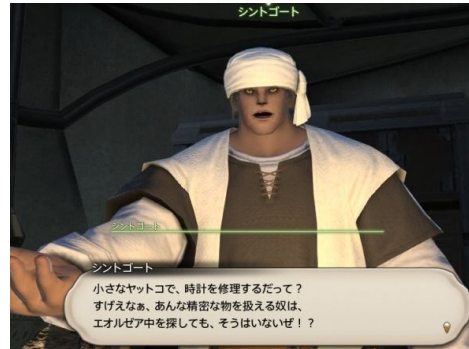


止まったままの時間

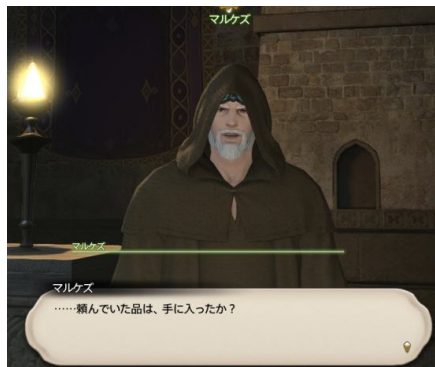
マルケズ : ……なあ、これを見てくれ。こいつは時計、しかも持ち運べる「懐中時計」ってやつだ。
ドライポーンに収容された遺体が持っていたんだが……。
でも、壊れてしまっている……。……持ち主の死とともに、時計の時間も止まってしまった。
死者を生き返らせるのは無理だが、これなら俺が……。
……これを修理するには、専用の道具が必要だ。先細のタガネと小さなヤットコ。
ウルダハの彫金師ギルドや商店で手に入るだろう、頼めるか？

メメデス : 先細のタガネが欲しいって？ まあ……必要ってんなら用意するが、こいつは、かなりの腕の彫金師じゃないと取り扱いえないぜ？

シントゴート : 小さなヤットコで、時計を修理するだって？ すげえなあ、あんな精密な物を扱える奴は、エオルゼア中を探しても、そうはいないぜ！？



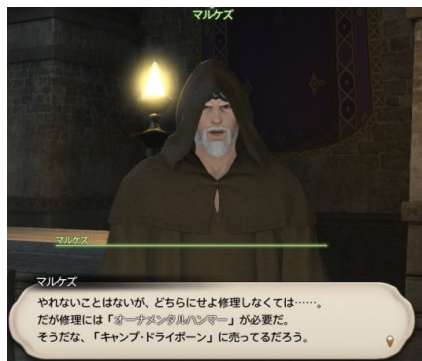
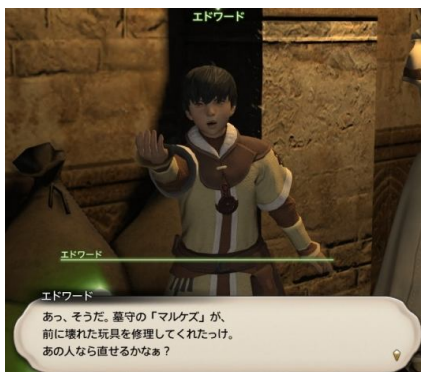
マルケズ : ……頼んでいた品は、手に入ったか？
……ありがとう、感謝する。すぐ修理に取りかかってみよう。
……時計は直ったぞ。持ち主の時は止まっても、世界の時は動き続けている……。
しかし……なぜだ？ どうしてなんだ？
……なぜ俺は……時計を直せる？ 精巧に重なりあうゼンマイやアングル……。緻密なトゥールビヨン脱進器の鼓動……。
すべての構造を……なぜか俺は知っている。そして俺の手が、修理法を憶えている。……なぜなんだ……。
……すまん、少し疲れたようだ。この時計を「エルネド」に渡してくれ。
彼女は今、この時計の持ち主を吊っているところだ。



エルネド : あら、冒険者様。どうかなさいましたか？
……これは時計、ですか？ まあ、なんて小さい……。こんなものは生まれて初めて見ました。
きっと、ガレマール帝国で作られたものでしょう。帝国の機械技術は、エオルゼアの技術よりもはるかに優れていると聞いたことがあります。
もしかしたら、この持ち主は帝国人……。『ガレマール帝国』の密偵だったのかもしれないね。
念のため「不滅隊」に報告した方がいいでしょうか……。
……それにしても、こんなものを修理できるだなんて。マルケズさん、彼はいったい……。？

意外な特技

エドワード： ちえッ、こりゃ駄目だ。ボロボロで変な形だし、底に穴も空いちゃってるよ。せっかくメシの煮炊きに使おうと思ったのに！
ねえねえ、この「壊れた調理器」だけどさ、直すことってできないかな？……ムリ？ なんだよ、冒険者のクセに使いねえなあ〜。
あっ、そうだ。墓守の「マルケズ」が、前に壊れた玩具を修理してくれたっけ。あの人なら直せるかなあ？



マルケズ： ……俺に……何か用か？
これは……蒸留器か。……そう、錬金術師が蒸留に使う道具だ。これでメシの煮炊きを……？
やれないことはないが、どちらにせよ修理しなくては……。だが修理には「オーナメンタルハンマー」が必要だ。
そうだな、「キャンプ・ドライボーン」に売ってるだろう。

マルケズ： ……蒸留器の修理をするんだろう？ それには「オーナメンタルハンマー」が必要だ。持ってきてくれたら、修理してやるよ……。
……持ってきてくれたか。わかった、修理してエドワードに返しておこう。この程度なら朝飯前……のはずだ。
……それにしても、この懐かしさは何だ？ ハンマーが、やけに手に馴染みやがる……。
俺は昔……こんな仕事を、していたのか……？

サボテンダーは元気の源

イルカム： このところ、司祭様方がお忙しそうだね。最近はみなさん、少しお疲れのご様子だったの。
そこでわたし、何かお手伝いできないかと考えて……
……思いついたのよ！ 特製の飲み物を作って、英気を養っていただこうって！
せっかくですもの。太陽をさんさんと浴びたサボテンダーの果肉で、ジュースを作ってみたいわ。
この時期なら、「アラグ陽道」の辺りなんて絶好の場所ね。あそこは人の往来が少ないから、きっと、
太陽を浴びまくっているサボテンダーがいるはずよ。
冒険者さん、お願い！ 「サボテンダー・デル・ソルの果肉」を、手に入れてきてくれないかしら！



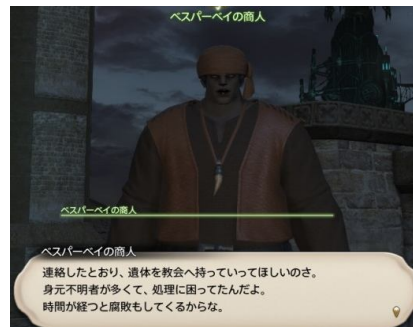
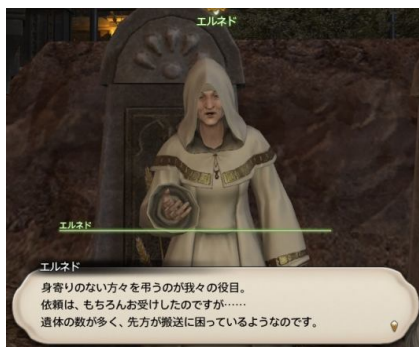
イルカム： どうか、冒険者さん？「サボテンダー・デル・ソルの果肉」は手に入りそう？
えっ、もう手に入れてきてくれたの！？ サボテンダーより、ずっとはやい！！
じゃ、急いでジュースを作らなきゃ！ ……これを、こうして、こうやって……。…………できたわ！
冒険者さん、この「サボテンダージュース」を、墓守のマルケズさんに届けてきてくれるかしら。……わたし、恥ずかしくて。
……え、司祭様方に？ もちろん、お渡しするわよ。でも、最初はマルケズさんに渡したいの！
うふふ、これでお近付きになれるかしら……。フードの下の素顔がステキな、マルケズさん……。

マルケズ： ……◆◆か。どうしたんだ？
これは……ジュースか。どうして、こんなものを俺に？
……お手伝いのイルカムさんから……。悪いが、今の俺に必要なのは……ああ、いや……。
……そうだ。このジュースは、イリュド神父にお渡ししておこう。神父は大変お忙しいようだ、きっと喜ぶだろう。

静かなる葬送

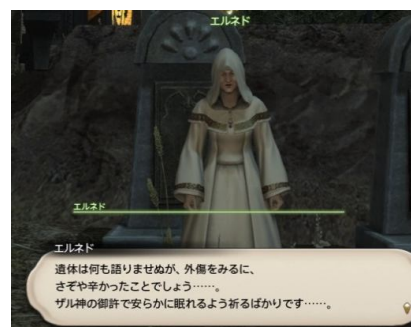
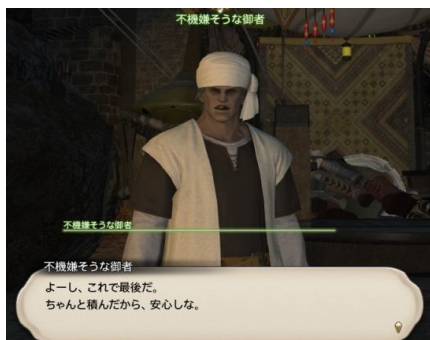
エルネド： ベスパーベイの住民から、引き取り手のない遺体を、当教会で預かってほしいとの依頼がございました。身寄りのない方々を弔うのが我々の役目。依頼は、もちろんお受けしたのですが……遺体の数が多く、先方が搬送に困っているようなのです。どうか、遺体の搬送にご助力くださいませ。先方はベスパーベイでお待ちです。……よろしく願いいたします。

ベスパーベイの商人： ……おや、あんた……。聖アダマ・ランダマ教会からの使いかい？ てっきり墓守の兄ちゃんがくるかと思ってたぜ。連絡したとおり、遺体を教会へ持って行ってほしいのさ。身元不明者が多くて、処理に困ってたんだよ。時間が経つと腐敗もしてくるからな。……何があったかって？ ほら、帝国兵が急襲してきた事件があったろ？ そんなときに殺されちまった連中さ。詳しいことは知らねえがな。そりゃあもう、酷い有様だったんだ。せめて、教会でちゃんと葬ってやってほしくてよ。あれ？ そういえばお前さん、この辺りで見かけたことがあるような？ ……まあ、いいが。遺体を搬送するために、チョコボ・キャリッジを街の入口に待機させてるんだ。遺体は全部で8体ある。悪いが、遺体置き場を何度か往復して、遺体をキャリッジに積みこんでくれ。それじゃ、あとは任せたぜ。俺も忙しいんでね……。



不機嫌そうな御者： あんた、教会から手伝いにきた人かい？ ……さっさと、遺体置き場から遺体を運んできな。……たしかに受け取ったぜ。あと4体ほどあるはずだ。ほれ、遺体置き場から遺体を運んできな。まったく、辛気臭い仕事だぜ。あと4体ほどあるはずだ。ほれ、遺体置き場から遺体を運んできな。よし、これで最後だ。ちゃんと積んだから、安心しな。それじゃ、ぼちぼち教会へ向かうとすつか。あんたもご苦労だったな。教会に戻って報告するといひさ。

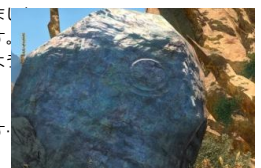
エルネド： 冒険者様、お勤めご苦労さまでございました。先ほど、チョコボ・キャリッジが到着し、すべての遺体を運び終えたところでございます。なんでも、これらの遺体は、帝国兵に殺されたものだとか……。遺体は何も語りませぬが、外傷をみるに、さぞや辛かったことでしょう……。ザル神の御許で安らかに眠れるよう祈るばかりです……。



最後の祈禱を捧げて

エルネド： お預かりした、ベスパーベイの方々の遺体ですが……身元がわからない方が多く、遺体の引き取り手は、ほとんどおられませんでした。そのうえ、遺体の数が想像以上に多くて……。当教会の墓地では、埋葬しようにもその場所が間に合わない状態でした。そこで、イリユド神父と相談して第七霊災の被災者の方々が眠る共同墓地にみなさんを埋葬してまいりました。この東ザナランの南に、審理の女神アーゼマの秘石が祀られた「最後の祈禱」と呼ばれる地があります。どうか、そこで祈ってきていただけないでしょうか。彼らを襲った者たちに、正しい裁きが下されますよう。残された我々には、それしかできないのですから……。

エルネド： お亡くなりになった方の中には、貴方様の知人も居られたとか……。心よりご冥福をお祈り申し上げます。死してエーテルへと還った方々が、ザル神の導きで来世に清い生を授かるよう祈りましょう……。



小さな勇者の帰還

- エルネド** : お預かりした遺体の中に、シルフ族の遺体がありました。……この遺体を、黒衣森の「シルフの仮宿」へ、返しに行ってくださいませんか。
シルフ族は、我々とは異なる独自の文化を持つと聞きます。……きっと、このシルフ族も自分の故郷で、ゆっくりと眠りたいでしょうから……。
- コムシオ** : アナタ！ 仮宿へようこそでぶっち！……そういえば、砂の家にオツトメしてる、ノラクシアは元気なのでぶっち？
……ふえ？ ……ノラクシアなので……ぶっち！？ どどど、どういことなのでぶっち！？ なんな、なんなのでぶっち！？
- フリクシオ** : コムシオ、何事なのでぶっち？ んもう、さわがちいのでぶっち。
- コムシオ** : 長ちやま！ ちょうどよかったのでぶっち！
- フリクシオ** : これは冒険者どの！ 仮宿ようこそでぶっち！ 今日は何の用なのでぶっち？
なんと、そんなことがあったのでぶっち！？ ……くわしい話を聞かせてほしいのでぶっち。
……そうだったのでぶっち……。ノラクシアは逝ってしまったのでぶっちか……。



- コムシオ** : ノラクシア……。
- フリクシオ** : ノラクシアに砂の家へ行くのを奨めたのは、ワチシなのでぶっち……。暁の方や冒険者どのに、責任はないのでぶっち。
冒険者どの……。ノラクシアは、最後まで立派だったのでぶっち？
……よかったのでぶっち。きっとノラクシアも、お役に立てて喜んでいるのでぶっち。
……冒険者どの、ありがとうなのでぶっち。ノラクシアは、ここでちゃんと弔うでぶっち。
お世話になった教会の方々にも、礼を言っておいてほしいのでぶっち。
- コムシオ** : ノラクシアを殺したのは「テイコク」なのでぶっち？ ……アイツたち、ゆるさないでぶっち……。
アナタ、いつか「テイコク」と戦う時がきたら、シルフ族はチカラを貸すのでぶっち。
ノラクシアの想いは、シルフ族みんなで紡ぐのでぶっち！
- エルネド** : 黒衣森までの旅路、大変ご苦労さまでございました。これでお預かりした遺体はすべて弔えました。
あのシルフ族も、故郷で穏やかに眠ることができましょう。
……まあ、シルフ族の長がお礼を？ 私には祈ることしかできませんでしたが、
残された方の悲しみが少しでも癒えたのなら幸いです。

彼方より来たりて

- マルケズ** : ◆◆◆……。……お前に相談がある。最近、どうも誰かに見られている気がするんだ……。
……何と説明すべきかわからないが、女性からの視線ではない……と思う。……監視されている……という言葉が正しいだろう。
ついさっきも視線を感じたんだ。そいつは、教会周辺の墓に潜んでいるようだ。すまないが、様子を見てきてもらえないか。
- マルケズ** : どうだ、何かわかったか？ ……襲われただって？ 穏やかじゃないな……大丈夫だったか？
……しかし、いきなり得物を振り回してくるとは、やはり俺は監視されていたのか……？
しかし、記憶のない俺を見張るとは……。……まさか俺の過去に関係が……？
……いずれにせよ、教会の周りに、そんな物騒なヤツが居るのは危険だ……。『イリュド』神父にも伝えておいたほうがいいな……。
- イリュド** : 話は聞こえていましたよ。わかりました、こちらろも気をつけておきます。……襲ってきた者の、手がかりなどはありませんか？
これはもしや『ガレマル帝国』のものでは……。……マルケズは帝国軍に監視されているのでしょうか。彼はいったい……。
何にせよ、礼拝される方々に万が一のことがないよう、「不滅隊」にも連絡を入れておきましょう。



アルフィノ : 尋ね人を同時に2人も見つけることになるうとは。ゆくゆく、私はツイているな。
こんなところで、帝国の影に怯えている場合ではないぞ。我々の手で「暁」を甦らせねばならん。
そのためには……。
ガーロンド・アイアンワークス代表……。伝説の機工師、シド！ あなたの力も必要となる！

イリユド : どなたか存じませんが、ここに居る男はマルケズと申す者。先の霊災で心に傷を負い、癒しが必要な状態です。
どうか、そっとしておいてください……。

マルケズ : ……ああ……ああ……。

アルフィノ : 世界は今、あなたの力を欲しているのだ！ こんなところで眠っている場合ではないぞ！

マルケズ : お前は……。俺はお前を……。……ああ……あ……。

イリユド : マルケズ……いや、シドと言ったかな。これを持っていきなさい。……あなたのものだ。
シド……いっしょに暮らすうちに、あなたはきっと、名のある人だと予想はしていた。
短い間だったが、息子が戻ってきてくれたようで嬉しかったよ。私はもう、十分に幸せな思いをさせてもらった。
あなたを、世界にお返しする時がきたのです。

シド : お前はいつたい……。

アルフィノ : 私の名は、アルフィノ・ルヴェユール。
亡き祖父の意思を継ぎ、「暁の血盟」の一員として、蛮神、そして帝国と戦っている。
「暁」が襲撃された件は知っている……。すでにエオルゼア中で噂になっているよ。
エオルゼア諸国は、ここしばらく霊災からの復興と国内問題の解決に注力してきた。
その間、手薄となった蛮神対策の担い手として、神狩りを引き受けていたのが「暁の血盟」だ。
その「暁」が壁ちた……。各国上層部も動揺しているが、だからこそ、ここで戦いをやめる訳にはいかない。
イクサル族が蛮神「ガルーダ」を召喚した。現在、クルザスで猛威を振るっている。
蛮神「ガルーダ」は、数居る蛮神の中でも、特に好戦的で狂暴だ。
委員会の調査によれば、それは「イフリート」や「タイタン」を軽く凌駕するほど……。ひとつ格上の存在といわれる程だね。
つまり、その蛮神「ガルーダ」を狩れば、ほかの蛮族たちにあたえる影響も大きいということだ。
蛮神が絶対的存在ではない証明になるのだからな。
蛮神「ガルーダ」が控える祭壇は、暴風の壁に守られている。
シド、あなたの出番だ。「エンタープライズ」を探しに行く。

シド : ……エンタープライズ……だと？ もしや、それは……？

アルフィノ : そうだ。シド、あなたの飛空艇だ。
あの船は、霊災前に、グリダニアから飛び立ったのが最後のはず。その足取りを追う。

シド : 俺の……飛空艇……。……ああ……あ……。
……少し、待ってくれ。



アルフィノ : 長く続いた蛮神との戦いも、いよいよ最後だ！ 我々は、エオルゼアは、まだ牙を失ったわけではないと、世界に見せてやろう！

シド : エンタープライズ……。そこに俺が居る……。必要とされている俺が……。

飛空艇エンタープライズの行方

イリユド : そうでしたか……。まさかマルケズが、ガーロンド・アイアンワークスのシドだったとは。
……彼はきっと、あなたと同じ運命の中にいるのでしょうか。
たしか、飛空艇「エンタープライズ」を探しに行くとおっしゃっていましたな。
第七霊災直前に、グリダニアからエンタープライズが北へ飛び立ったとの話を聞いたことがあります。行き先まではわかりませんが……。
黒衣森の北部森林にある「**フォルゴウド**」には「双蛇党」の詰所があったはず。現地で話を聞いてみるというでしょう。
私も「暁の血盟」の一員……。あなた方のお力になれるよう努めましょう。
マルケズ……。いえ、シドのこと、よろしくお願いしますね。

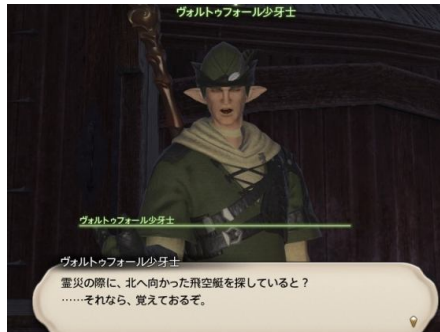
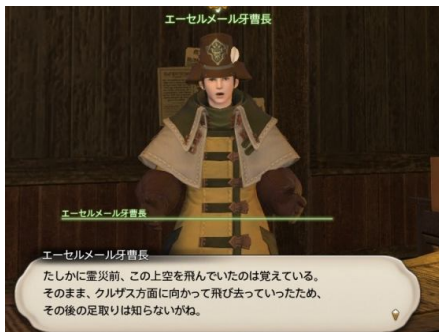
アルフィノ : ウリエンジェから、君が蛮神「タイタン」に挑むと聞き、次なる蛮神「ガルーダ」の情報を探っていた。
すぐに砂の家に向かわなかったことが、よかったのかはわからない……。ただ、生き残った者には、前へと進む義務があるんだ。

シド : 飛空艇……。「エンタープライズ」か……。何ひとつ思い出せないのに、なぜ、こんなにも懐かしい気持ちになる……？



エーセルメール牙曹長 : ここは、グリダニアのグランドカンパニー「双蛇党」の詰所である。
……飛空艇「エンタープライズ」を探している？ それは、ガーロンド・アイアンワークスの船のことか？
たしかに霊災前、この上空を飛んでいたのは覚えている。そのまま、クルガス方面に向かって飛び去っていったため、
その後の足取りは知らないがね。
ここから西にある「フロランテル監視哨」で目撃者を探したほうが良いかもしれんぞ。
しかし……。何だって今頃、あの船の話？ たとえ手に入れたところで、第七霊災以降シドは行方不明。
まともに操縦できる者などいないだろうに……。

ヴォルトゥフォール少牙士 : 冒険者が、このようなところに何用か……。
この先はクルガス中央高地。霊災以降、急激に寒冷化し始め、現在もお悪化の一途だ。遊びで行けるような場所ではないぞ。
霊災の際に、北へ向かった飛空艇を探している？ ……それなら、覚えておるぞ。



あの山を越えて

ヴォルトウフォール少将 : あれは、カルテノーの戦いが始まる直前のことだ……戦地へ招集されず、ひとり監視哨を守っていたワシの頭上を立派な飛空艇が通り過ぎていった。こんな緊急時にどこへ行くのかと思えば、クルザスの山中に消えていきおった。クルザスといえば、宗教都市「イシュガルド」の治める地。かの都は門を閉ざして久しく、カルテノーの戦いにも、不干渉を貫いていたはずだが……。飛空艇の行方を追うつもりなら、クルザス中央高地の「アドネール占星台」の衛士を訪ねるといい。奴らは四六時中、空を監視しているからな。

ルドヴォア : ……飛空艇について聞きたい？ 貴様、よほど無知な冒険者のようだな。ここ、クルザス中央高地は、我々が都「イシュガルド」の前庭。通行こそ容認しているが、よそ者と馴れあうつもりはない。占星台の記録を開示するなど、もってのほかだ。我々は冒険者を頼るつもりはない。貴様も我々を頼らず、早々に立ち去るんだな。

